

平成 29 年度第 4 回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録（要旨）

1 日 時 平成 30 年 3 月 14 日（水）午後 1 時 40 分～午後 3 時 10 分

2 場 所 千葉競輪場 4 階多目的室

3 出席者 （委員）

篠崎委員長、藤本委員、高岡委員

（事務局）

杉戸経済部長、池原課長、鴻崎所長、酒井所長補佐、山本主任主事、細谷

（日本写真判定株式会社、以下、「J P F」）

吉川部長、荻原統括マネージャー、邊田所長、石塚所長代理、高橋所長代理

4 議 題

（1）平成 29 年度包括委託の実績報告について

（2）平成 30 年度包括委託について

（3）その他

5 会議経過

（篠崎委員長）

議題（1）平成 29 年度包括委託の実績報告について、J P F に説明を求める。

（J P F）

（場内イベント）

12 月 30 日～1 月 1 日のグランプリの年末年始にかけてのファンサービスを実施。ケーターリングカーを出店、C K B カフェで甘酒のプレゼント。これは毎年恒例。新しいサービスとして、G III 以上の場外開催時に特別観覧席及びロイヤルルームの利用者を対象にラッキーカードを配布、抽選しプレゼントを提供するもので、特別観覧席及びロイヤルルームの利用促進のため実施。

松阪記念での場外発売による未確定車券抽選会を実施。

新企画で、2 月 3 日に千葉競輪場縁日、豆まき大会を実施。ホームページや SNS の発信、多数来場し、千葉競輪場の正門で実施。

千葉市立弁天小学校 3 年生職場見学として 3 年前くらいから実施しているが、職場見学として競輪場に来て頂き、競輪選手による指導で、自転車乗車体験イベントを実施した。

ケンタッキーフライドチキン稲毛長沼店とのコラボ企画で、通常の間外開催やサイクルクラブ時に競輪場に出店し、好評を得た。

(場外イベント)

千葉公園野球場で行われた千葉市青少年のつどい大会に参加した。市内のプロスポーツチーム、ジェフ、千葉ロッテ等のゆるキャラと共に、千葉競輪場公式キャラクターのライモンが参加した。

(サイクルクラブ)

サイクルクラブの実施報告。96名の過去最高参加者数で2月25日に練習会を行った。

(統制業務)

救急時対応で、最新の情報を得るために担当社員が各種研修会に参加した。変則的な事柄についての対応は現場の生の声を聴きながら改善している。

(場外収入)

本場開催については、前回のモニタリングの際に全て開催が終了している。場外収入に関しては、場外開催を引き続き行っており、3月の数字に関しては、競輪場の売上げ予測を踏まえた数字で了承願いたい。

(篠崎委員長)

議題(1)について、市にモニタリング結果の説明を求める。

(事務局 酒井所長補佐)

受託者から提出のあった平成29年度開催事業実施計画にもとづき計画通り事業を実施していることを確認した。

開催ごとに、3月までの開催業務実施計画書及び開催業務実施報告書の提出を受けて、市営競輪の開催業務について検査を行い、実施計画通り開催業務を良好に遂行していることを評価した。

(議題(1)についての質疑応答)

(篠崎委員長)

本場開催終了後の1月、2月、3月の場外売上げについて、本場開催終了の影響は出ているのか。

(JPF)

場外開催に関しては、どこのサテライト及び競輪場についても減少しているが、千葉競輪場の減少は他の場に比べて大きい。本場開催がなくなってしまった影響が出ている可能性も考えられる。

(篠崎委員長)

議題 (2) の平成 30 年度包括委託について、J P F に説明を求める。

(J P F)

平成 30 年度千葉市営開催は松戸競輪場及び川崎競輪場で、6 節 19 日予定されており、上半期については 8 月 F I、9 月に F II を川崎競輪場で開催する予定。

川崎と松戸は、例年 4 月から 11 月までナイター開催で、今回の千葉市営借上げ開催は昼間開催。そのため松戸と川崎の昼間開催平成 29 年 12 月から平成 30 年 2 月の売上げデータを基にしている。

川崎 2 月 F I 開催の実績が 10 億 2400 万円、これは週末開催の売上げデータである。今年予定している 9 月開催は平日開催であること、同日程の F I 開催が川崎を含めて全国で 4 開催しており売上げ見込みは 6 億円とした。

F II 開催、川崎の実績が 2 億 5000 万円、今回の 8 月開催は、オールスター競輪との競合開催だが、お盆の日程プラス年金の支給後で来場者が増える要素があり、約 3 億円の売上げを見込んでいる。

日程の決定している 10 月の千葉記念に関しては、松戸で開催する。松戸記念の売上げが昨年約 49 億円。年金支給日前後ということも含めて、50 億円を見込んでいる。

平成 30 年度の千葉場外売上げ予測だが、全国的に売上げ減少幅が約 10% 弱という事もあり、それをまず加味して予測している。

売上げ向上策及び借上げ場対策として 4 点ほど補足説明させて頂く。

(3 場併売)

現在千葉競輪場での発売は 2 場迄となっており、3 場、4 場併売する近隣サテライトと比べると競争力が弱い。そのため現状 8 月から 3 場併売の運用の実施を考えている。施設投資については、現在 2 場分の情報提供を、3 場分の情報表示に対応するため音声放送や出走表のシステム等、さらに車券購入にあたるシステムの改修が必要になるが、弊社で実施していきたい。特に投票所ではメインスタンド 2 階にモニターを増設してレース情報提供の拡大を図っていきたい。

(チャリロトプラザの誘致)

発売窓口の運用については、今後、施設の除却工事を鑑み、投票所のコンパクト化を図っていきたいと考えている。さらに、売上げ向上策として民間ポータルサイトであるチャリロトがインターネットでの発売以外に「チャリロトプラザ」を運営しており、競輪場の競輪大學内に誘致を考えている。千葉競輪場が非開催でも 365 日車券発売が可能になり、売上げ向上を図れる。運用開始 6 月中旬を予定している。

(地区社員の新設)

地域雇用という事に関して次年度より弊社で地区社員という雇用形態を新設。より社員

に近い立場になって、住居の地域、そのスタッフの住んでいる地域のニーズを集約し、より地元に着したイベント企画を構築する事で、来場者数、さらに売上げの向上につなげていきたい。地域社員は投票所スタッフから募集して、投票所のスタッフ 36 名いるが、うち 14 名が地区社員での登用が決定した。今後は、私共と一緒に社員と同様の体系でいろいろな業務に携わって頂き、千葉競輪場を盛り上げていきたい。

(借上げ開催に向けた投票端末の改修)

次年度以降本場開催を他場を借上げて千葉市営開催を実施する事になるが、そのために券面を開催場に合わせる必要があり、改修が必要。J K A のセンターシステムに新たなコードの新設と、富士通製の投票機を使用している場には投票機の設定変更が必要となる。次年度は川崎と松戸での借上げ開催になるが、平成 31 年度に関してはまだどこの場で開催するか決まっていないため、千葉を除く南関東場全てに関して、システムをあらかじめ変更しておき、どこの南関東場で開催したとしても車券発売できるように準備しておく。

(議題(2)についての質疑応答)

(藤本委員)

場外売上げ収入予測の 30 年度について、総売上げで 31 億円で、場外収入が 6500 万円という形で出ているが、この数字が千葉市に入るという数字か。

(J P F)

考え方としてはその通り。

(篠崎委員長)

場外収入だが、8 月から 3 場併売に移行することで売上げアップするイメージが強い。8 月から場外収入が上がっていくが、また下がる月もある。これは何の理由か。

(J P F)

3 場併売によって売上げ自体は上がっていく予測をしているが、ただ、日程の関係で G I 開催の有無、記念開催の多少で月毎の売上げが上下する。例えば、G I や G P のある 8 月や 12 月は、売上げがあり、収入も多いので、そういった要素は加味している。下期に関しては日程が決まっていないので何とも言えない状況である。今後の検討事項としてナイター開催はもちろん、モーニング開催についても、今の千葉競輪場の客層を踏まえると考える余地がある。

(高岡委員)

次年度の借上げ開催に関して 6 節開催という事だが、例年何節開催するのか？

(事務局 鴻崎所長)

15 節 46 日というのが全国どこでも基本となっている。急に松戸や川崎に 15 節を追加で借上げ開催するのは不可能なので、30 年度に関しては、各 3 節ずつお願いした。千葉の節数減少に伴い、選手のあっせんも減る。実際はまず千葉市が希望を出し、全国競輪施行者協議会と日本競輪選手会との協議の中です承頂いた結果が、6 節という事である。逆に言うと 31 年度は増える可能性があり、借上げ開催場が増える場合を想定して 3 場併売のシステムで南関東の 6 場で使えるように準備を進めている。

(篠崎委員長)

借上げ開催場どこになるかというのは全く未定だということか。

(事務局 鴻崎所長)

毎年協議という形になる。平成 31 年度については、今年の 11 月位までには調整が完了する予定。

イベント関係については包括の中で J P F にお願いする方向で考えている。開催執務は我々市の職員が借上げ場に行って行う。実際、競輪場の使い勝手というのは分からないので、借上げ先にも協力をお願いする。

(篠崎委員長)

千葉競輪場で継続して行ってきたイベントについては途切れてしまう心配もあるが、そういった点について何かあるか。

(J P F)

借上げ開催にあたり、借上げ先から既存のお客様を戸惑わせるような事は控えてほしいという話が上がっている。弊社としては千葉競輪場でのイベントや式典を継続して借上げ先でも行うべく交渉している。相手場にも理解頂き、何とか受託できる方向に進んでいる。

(事務局 鴻崎所長)

それぞれの場毎にイベントというのはある程度定着している部分がある。千葉と同じイベントをするのは、現状難しい。実際には川崎のお客様が戸惑う形になると迷惑をかけるような形になるので、調整しながら進めてもらう。

(篠崎委員長)

借上げの競輪場との調整は注意して進めてください。

チャリロトプラザについてだが、もう少し説明願いたい。

(J P F)

「チャリロトプラザ」は、現在、全国 13 か所の競輪場やサテライトで開設しており、ミッドナイト競輪を含むすべての競輪場の車券を購入できる。松戸や川崎でも開設している。運営に関しては全てチャリロト（株）が執り行うので、私たちが管理する必要がない。その条件で 365 日車券を販売する。

(事務局 鴻崎所長)

会員として登録、カードを発行し、入金することで車券が買えるという方式。カードに入金することでインターネットでも購入可能。会員制サイトで、千葉競輪場が場外非開催日でも「チャリロトプラザ」は開いている。高額ではないが、販売した手数料は市に入る。

(高岡委員)

利用者の立場からすると競輪場に来てチャリロトで買うか窓口で買うか、何か違いはあるか。

(事務局 鴻崎所長)

利用者にとっては違いは特にない。施行者としては、競輪場に来て購入してもらう、さらに言うとも場で開催中、購入してもらうというのが一番利益が出る。場外発売だと手数料を払うので、収益が若干減る。同様にチャリロトで販売した分の手数料が千葉市に入ってくる形になる。一番のメリットは、もし非開催であればチャリロト側で人件費や警備といった費用を全て持つことにある。手数料は低いが経費は掛からない。

(高岡委員)

コストとメリットを勘案した結果、チャリロトプラザ開設を決めた。

(事務局 鴻崎所長)

メリットとしては、千葉でカード会員になった場合、そのカードを使って他場で買う、ネットで買う時の手数料が千葉に入ってくる。

(篠崎委員長)

新しい良いアイデアがあったらどんどん実施して、それが目に見えるような形にして頂くのがありがたい。あと、地域雇用とあるが、雇用形態が違うのか。勤務する地域を限定した正社員というイメージか。

(J P F)

転勤がない正社員。

(篠崎委員長)

地元にとって採用が増えるという事はあるがたい。他に何かあるか。なければ、議題(2)について終わりたい。それでは議題(3)について何か。

(事務局 鴻崎所長)

審査委員会は、開催業務等ということで千葉市営競輪を主に審査をお願いしたい。従って市営開催、8月と9月の2開催の検証ということで了承願いたい。

次の会議の日程だが、9月19日と26日のどちらかで、7月ごろ目安に個別に連絡させて頂く形になる。

(篠崎委員長)

了解した。今後、会議が公開になっていくという事だが、その予定はどうか。

(事務局 鴻崎所長)

30年度第1回審査委員会からホームページ等で会議の公開としていきたい。

(篠崎委員長)

もし会議の公開となると、視覚的な分かりやすさが必要である。千葉市、包括委託業者の区別が、傍聴人からすると分からないと思われるので、レイアウトを工夫して欲しい。

(事務局 鴻崎所長)

了解した。

(篠崎委員長)

ぜひよろしくお願いする。それでは、新しい年度の事業者JPFの提案もあり、今後の日程について事務局より説明願いたい。

(事務局 酒井所長補佐)

議題(2)で了承頂いた包括委託について今後の日程を説明する。3月下旬に契約を行い、その後4月1日から委託業務を実施して頂く予定である。

(篠崎委員長)

了解した。